

1. 概要：

- ・初参加1名を含む総勢11名で「なぜほめられるとうれしいのか」という問いを掲げ、主に、ほめるとはどういうことか、ほめられてうれしい理由を考えると誰からが関係するか、対象は何か、について対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ・進行役から、高校時代に生物のテストで良い点を取ったときに先生にほめられた体験を紹介した上で、「なぜほめられるとうれしいのか？」の問いを提起した。

(1) 誰から？／誰を？が関係するか？

- ・誰からほめられるかで異なる。自分のことを良く分かって理解している人からほめられるとうれしいが、自分をあまり知らない人からではうれしくない。
- ・ほめられたい理由が人生で変わってくる。子供の頃は、単純に親や先生からほめられたいから。学生の頃は、友達から好意を示してもらい仲間として認められたいから。成人の頃は、他者からではなくても、自分で自分を認め、ほめることで満足ができる。
- ・自分が好ましくないと思う他者からほめられてもうれしくない。自分よりも上の立場の人（親・先生）からほめられる場合が多いと思うが、自分よりもテストの点数が低い人からほめられてもうれしくない。
- ・心地良い言葉がほめる言葉であって、需要と供給の関係のように、ほめてもらいたい人からほめられるとうれしいが、ほめてもらいたくない人からほめられてもうれしくない。
- 確かに、姑からほめられても、何かそこに隠れた意図を感じてしまって、うれしくない。
- ・本当か。誰からでもうれしいと感じるかもしれない。
- ・ほめる方を考えてみる。自分のライバルに対してはほめない。ほめる相手には、好かれたいという意図はなくても、伝えたいという意図はある。
- 下心のような意図が見えてもうれしい人もいる。警戒してしまうときもある。

(2) 対象は何か？その1

- ・ほめられてうれしいときとそうでないときがある。何かを頑張った良い結果が出たときにほめられるとうれしいが、そうでないときはうれしくない。
- ・客観的に自分で良くやったと評価ができる場合には満足ができる。一方で、もしも自分が映画：万引き家族で大人から万引きをやらされる子供だとしたら、成功してほめられてもうれしく感じないと思う。
- 自分だったら、その家族の一員として認めてもらえたと受け取ることができ、うれしいと感じると思う。
- ・ほめられる対象が仕事である場合は、自分の存在価値を認めてもらえたと受け取れるからうれしい。
- ・自分の子供の事例として、子供の描いた絵画が選抜され表彰されたが、子供はうれしくなかった様子。「なぜか」と訊いたら子供は「先生が言った通りに描いたら表彰されただけで自分が描きたかったことではないから」と応えた。自分が努力したり拘ったりした部分をほめてもらえた場合にはうれしい。
- ・仕事でも棚ぼた式に出せた結果をほめてもらったときはうれしくない。逆に、結果は出せなくても同僚から努力していたことを認めてくれてほめてくれたときはうれしい。自分の行為をしっかりと理解してくれているかどうかに関わる。
- ・ほめられたい対象が自分の努力というとき、それは自分の辛い思いや犠牲ということだが、その犠牲に共感してもらえたことがうれしいということではないか。
- ・羽生弓弦のように才能がある人が「才能があるね」とほめられてもうれしくはなく、やはりそこは努力をほめてもらいたいのではないか。

(3) ほめるとはどういうことか？

- ・「ほめる」には二つの意味がある。①ある程度客観的な物差しで測ることができるとき（テストの点数）。②自分らしさや自分の拘り・努力があるとき。
- ・もっと広い意味でのほめるも含めて良い。拘りや努力がなくてもほめられてうれしいときがある。
- ・AさんがBさんをほめるとき、そこに必ず相手に好意を持ってもらいたいという意図（下心）がある。意図がお世辞だけや商品を購入して欲しい等の下心があるとき、それが透けて見えるとうれしくない。
- 親が子供をほめる場合には、親は子供に好意を持ってもらいたいという意図はないはず。
- ・親が子供をほめるときに、何か隠れた意図が子供に見えると素直に受け取れないときがある。
- ・SNSにおける「イイネ」はほめると同じか。自分は「イイネ」の数が多くなると単純にうれしくなる。
- SNSにおける「イイネ」の数はテストの点数と同じような感覚で受け取れるから、うれしいのではない。内容がどうかとはあまり関係がなさそうである。
- ・その投稿を見たよという印という意味もあるので、「イイネ」はほめるとは少し違う。
- ・自分が作った歌をSNSでアップしたら大ヒットして道行く人からほめられたとする。その場合、ほめてくれる人と自分との間には人間関係はないはずなので、ほめられてうれしいことを考える際に人間関係は関係ないのではないか。
- 自分の作品には何かのメッセージを込めていて、鑑賞者がほめてくれるときはそれが伝わったということの意味するので、一種のコミュニケーションが成立していて、そこに人間関係はあると思う。
- ・亡き作者による作品に感動して誰かにその作品のことをほめるとき、なぜ他者に伝えようとするのか。
- その優れた作品を伝えることで自分が見つけた（インフルエンサーである）とほめてもらいたい心情からではないか。

(4) 対象は何か？その2～人格か行為か？

- ・相手から「(あなたの) 持っているその鞆はいいね」や「(あなたの) 机は綺麗だね」とほめられたときその対象は人（人格）ではなく持ち物や行為なので分けて考えるべきである。人格への言及と行為への言及とを峻別しないと様々な問題が発生する（例：ストーカー、パワハラ）。
- その通りだが、「机が綺麗」とほめられた場合はその行為（努力）を行った人をほめられたと受け取って、うれしく感じる場合がある。つまり、人格を行為まで広く一緒に捉える人にとっては行為をほめられるとうれしいが、別物と捉える人にとってはうれしくない、ということか。
- ほめられたときは人格と行為を一緒に捉えて良いが、行為の批判のときは人格とは別と捉えた方が良い。

3. まとめ

- ・ほめられてうれしいときとそうでないときの違いには対象を人格と行為と一緒に捉える場合と全く別物と捉える場合との違いが一つの理由になっていそうである。一方で、対話中に出た「持ち物である鞆」と「清掃した行為の結果である机の状態」との違いはあるか。時間切れとなってしまったが、各自で考えてみることを勧めたい。